

『絵本からのおくりもの』 ～絵本で知ろう子どもの心～

I はじめに

日々の保育の中で、子どもたちに絵本の読み聞かせをしていると、絵本の内容に合わせて表情や感情が変化していると感じる。絵本の内容から様々な感情を知り、想像し、考えることで情緒の発達や安定につながるのではないかと考えた。

そこで、保育者や保護者が伝えたい事を絵本から選び、与える事で感情が豊かになり、情緒が育っていくのではないだろうか。絵本には作者の意図があり、色々な考えを持てるようになる。悲しい、悔しいなどの感情が自分では理解できない子どもたちに、絵本からそれらの感情を教えてもらい、自分の感情をより一層知る事ができるだろう。日々の保育や家庭での会話を通して、大人がその子の考えを知るツールとして活用できるのではないかと考えた。

そして、絵本の読み聞かせで、共感力・表現力・想像力を育み、感情の変化が起こり、友だちとの関係や親子関係が豊かになる事を望み、この研究を進めていくことにした。

II 方法

1. 対象 県西ブロック内 令和4年度35施設
令和5年度31施設
2. 研究期間 令和4年5月～令和5年11月
3. 方法
 - ・ 研究テーマについての協議、共通理解
 - ・ 絵本の貸し出し、親子で利用する絵本コーナーを開設
 - ・ 保育者対象アンケートの実施、集計
 - ・ 絵本だよりの発行
 - ・ 保護者対象アンケートの実施、集計
 - ・ 保育者対象講演会の実施
 - ・ 研究のまとめ

III 経過

(令和4年度)

4月	テーマの検討
6月	テーマ決定
7月	保育者アンケート配布 保護者アンケート配布
8月	絵本だより第1号発行
10月	絵本だより第2号発行 保護者アンケート配布
12月	絵本だより第3号発行 実践I方法の決定
1月～3月	実践I記録集計
2月	保護者アンケート配布 絵本だより第4号発行

(令和5年度)

4月	絵本だより第5号発行
6月	実践II記録
7月	絵本だより第6号発行 保育者アンケート
9月	絵本研究者による zoom研修会
10月	保育者アンケート配布
11月	～まとめ

IV 結果と考察

1. 現状を把握するために保育者と保護者に向けてアンケートを実施した

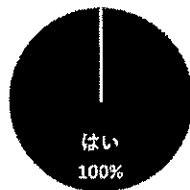
【保育者対象アンケート 各施設で絵本の読み聞かせや貸し出しを行っているか】

対象：県西ブロック保育施設 35 施設 保育研究担当者

実施期間：令和4年6月

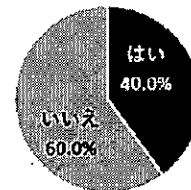
回収人数 35人 (回収率100%)

質問1 貴施設で絵本の読み聞かせを
していますか?)



質問2

絵本の貸し出しを行っていますか?

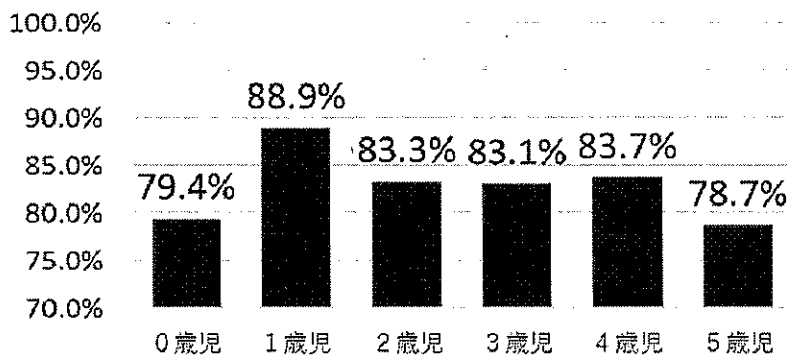


【保護者対象アンケート 絵本について】

対象：県西ブロック保育施設 35 施設 全園児の保護者 家庭数 2,844 軒 子どもの数 3,518 人

実施期間：令和4年10月

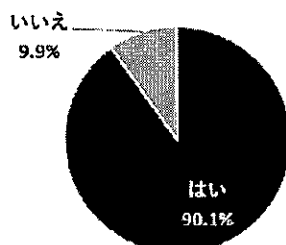
回収率



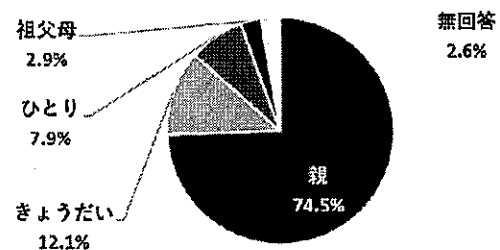
回収人数 (回収率)

0歳児	212人/267人 (79.4%)
1歳児	409人/460人 (88.9%)
2歳児	473人/568人 (83.3%)
3歳児	598人/720人 (83.0%)
4歳児	646人/772人 (83.7%)
5歳児	661人/840人 (78.7%)

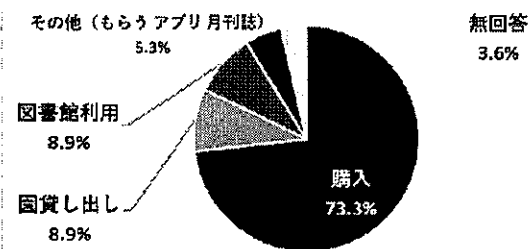
質問1 お家で絵本を読みますか?



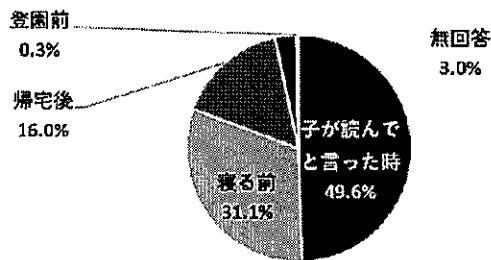
質問2 誰と読みますか?



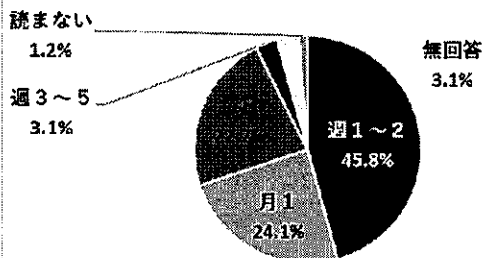
質問3 絵本の入手先は？



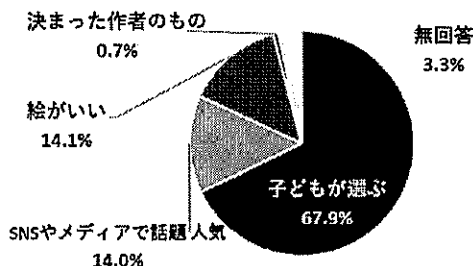
質問4 いつ読んでいますか？



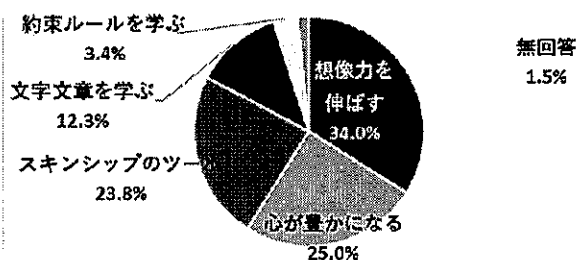
質問5 絵本を読む頻度は？



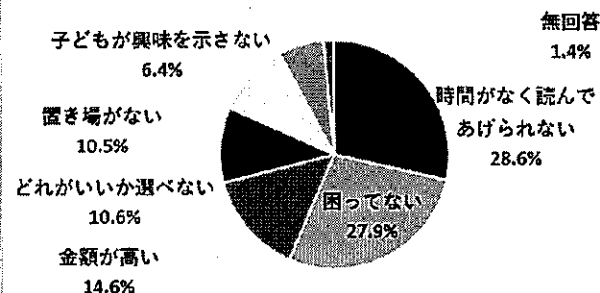
質問6 絵本選びのポイントは何？



質問7 絵本に対して思っていることは？



質問8 絵本選びで困っていることは？



考察1：

県西ブロック内の全施設で読み聞かせを行っているので、絵本についての研究が進めやすいと思った。

貸し出しも半数近くが行なっているので、保護者に絵本を勧めることが可能だと考えた。

保護者対象のアンケートを取ることで、家庭での様子を知ることができた。家庭でも絵本に触れる機会が十分にある。しかし、質問4の結果にもあるように「子どもが読んでと言った時49.6%」と率が高かったところを見ると、子どもが望まないと言わないのではないかと推測される。

絵本だよりを発行することにより、保護者にも絵本に興味を持ってもらえるようにする。

2. 課題絵本導入について

なるべく園内で進められる研究をしようと考え、正確な統計が取れるよう、同じ絵本を使い年齢ごとに読み聞かせを行った。

対象：県西ブロック35施設 全園児

実施期間：令和5年1月～3月

【実践記録 I 0・1歳児】

絵本名	いない いない ばあ		
ねらい	繰り返されるリズムの中で、安心感を持ちながら楽しむ		
月	読み聞かせ中の 子どもの反応	読み聞かせ後の子どもの感想	課題絵本を読んだことでの変化
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて見る絵本を静かに見ている。 ・指をさして見ている。 ・登場する動物を予想したり、登場してきた動物の名前を呼んでいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニコニコと嬉しそうな笑顔が見られた。 ・読み終わると「んー！もっと」と絵本を指さす姿があった。 ・「ねずみさんいたね」など登場する動物を思い出して嬉しそうにしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育中、保育者の後ろから、「ばあ」と顔を出すようになった。 ・友だち同士で「いないいないばあ」をして楽しむ子がいた。 ・絵本に興味を持ち、喜んで見られるようになった。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・「ばあ！」のタイミングで両手を開いて笑顔で「ばあ！」と言う。友だちが言ったのをまねして「ばあ！」をいう子もいた。 ・効果音を出しながら動物を少しずつ見せていくような見せ方をすると楽しそうな表情を見せた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ワンワンいたね」「動物さん、いないいない上手だったね」などと感想を言っていた。 ・「楽しかったー」「もう1回」と嬉しそうに言っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表情が豊かになり、穏やかな雰囲気ですぐ次の遊びに入ることができるようになった。 ・泣いている友だちに「いないいないばあ」をする子がいた。 ・繰り返し読むことで子どもたちのお気に入りの絵本になった。
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・「にゃんにゃん」「いないいないばあ」と覚えた言葉を言っていた。 ・読んでいる保育者と一緒にタイミングで「ばあ！」をしていた。 ・保育者がゆっくりページをめくろうとすると「やってやって」と嬉しそうにねだってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み終わってから嬉しそうに保育者や友だちに「ばあ！」をする子や、「もう1回もう1回」のコールがあった。 ・友だちと「ばあ」と顔を見合わせていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・着替え時に服から頭を出す際などに「ばあ！」と自分から言う子がいた。 ・お気に入りの絵本だけでなく、色々な絵本を集中して見られるようになってきた。 ・絵本の時間以外でも「いないいないばあ」遊びをしている子がいた。
考察	<p>0歳児： 絵本をめくるリズムと「いないいないばあ」のリズムを楽しむことができる。必ず「いないいない」の後に「ばあ」が出てくるので安心できると考えられる。</p> <p>1歳児： 友だちや自分より小さい子と「いないいないばあ」遊びを共有できたことから、この絵本が楽しいものだと理解することができたと考えられる。</p>		

【実践記録Ⅰ 0・1歳児】

絵本名	きんぎょがにげた		
ねらい	楽しみながら観察力・集中力を養う		
月	読み聞かせ中の 子どもの反応	読み聞かせ後の子どもの感想	課題絵本を読んだことでの変化
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて読んだ時はほとんど反応がなかった。 ・集中してじっと見ている子もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本に手を伸ばして触る子がいた。 ・「もっと読んで」「きんぎょさんお友だちいっぱいいてよかったね」「にげたね」と言っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「どこ」という言葉を覚えた様子 ・見ているだけだった子も段々見つけようとする姿が見られた。 ・絵本以外でも園で飼育している金魚やこの絵本以外の絵を見ると指をさして喜んでいた。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が「きんぎょどこ？」と質問すると立ち上がり絵本まで来たり、「ここだよ」「テレビの中にいる」など答えてくれた。 ・静かにきんぎょを一生懸命に目で追っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「きんぎょおさんぽしてたね」と嬉しそうに言ったり、「きんぎょバイバイ」と笑顔で手を振っていた。 ・保育者が作ったきんぎょがにげたの歌を、読み終わった後に口ずさんでいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・別の絵本を読んでいる時も「〇〇（動物いた）」などと言うようになった。 ・赤いものを見つけると「いた」と言っていた ・同じ絵本でも飽きずに喜んで見ていた。
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・きんぎょの場所が分かっているにもかかわらず初めて見た時のように楽しそうにしていた。 ・ページをめくる前から待ち構え、きんぎょを見つけていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お気に入りのページを保育者に知らせたく絵本をめくる子がいた。 ・「きんぎょが1ついた」「あかいきんぎょがいた」等、具体的に話すようになった。 ・大型絵本を喜ぶ子と普通サイズと変化がない子がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・以前より、きんぎょを見つけようとする姿が見られるようになった。（きんぎょだけでなく何かを探す仕草が多く見られた） ・「見つけた」と言えるようになった子がいた。 ・きんぎょを数えることで少ない数を数えられるようになった。
考察	<p>0歳児： ページごとに移動するきんぎょを集中して見つけようとする姿が見られたことで、観察力の向上につながると考えられる。</p> <p>1歳児： 思いを言葉で伝えるようになったことで、きんぎょを見つけるだけでなく、ページ全体に目を向け観察できていたと考えられる。</p>		

【実践記録Ⅰ 2歳児】

絵本名	きんぎょがにげた		
ねらい	楽しみながら観察力・集中力を養う		
月	読み聞かせ中の 子どもの反応	読み聞かせ後の子どもの感想	課題絵本を読んだことでの変化
1月	・「あ、いたー」「ここにいたー」「テレビ」「あめ」「いっぱい」など言葉が出てきた。	・「すぐみつけちゃったー」「簡単だったね」「また見たいね」と友だちと会話を楽しんでいた。	・別の絵本に金魚が出てくると「きんぎょがにげたの絵本にも出てくるね」と言う子がいた。
2月	・「〇〇の後ろにいる」「〇〇の所」と詳しく言っていたり、次が待ちきれずに自分でページをめくろうとする子がいた。	・「みんなとあえてよかったね」と嬉しそうに言っていた。 ・「また読んでね」「きんぎょかわいいから逃げないでほしかったね」と言っていた。	・友だちと何かを探す遊びをしていた。 ・自由に絵本を読む時間に自分でこの絵本を持ってきて、楽しそうに見ている子がいた。
3月	・すぐに見つけ立ち上がり絵本の所に来て「ここだよ」ときんぎょ見つけ競争をしていた。	・友だち同士で「あそこにはいたんだよね」「きんぎょかわいかったね」「いちごにいるの気付かなかったよ」と会話をしていた。	・絵本の文章を暗記して、嬉しそうに保育者と一緒に読む子がいたり、集中力が身についたように思う。
考察	きんぎょを見つける競争をすることで集中力が高まったり、友だちと感想を言い合う事で、さまざまな意見があることを知ったと考えられる。		

絵本名	おおきなかぶ		
ねらい	友だちと協力することのよさを感じる		
月	読み聞かせ中の 子どもの反応	読み聞かせ後の子どもの感想	課題絵本を読んだことでの変化
1月	・「うんとこしょどっこいしょ」と保育者と一緒に言っていた。	・「〇〇いたね」など、登場人物について話したり、「かぶ抜けてよかったね」と言っていた。	・園庭の草を「うんとこしょどっこいしょ」と言いながら、友だちと一緒に抜いて遊んでいた。
2月	・保育者に合わせて「うんとこしょどっこいしょ」と楽しそうに参加していた。	・「みんなで引っ張ると抜けるんだね」「ねずみは力持ちなんだね」と言っていた。	・おおきなかぶごっこを友だちとしていた。 ・困っている子がいると手伝う姿が見られた。
3月	・動物になりきってかぶを引っ張るまねをしていた。 ・保育者と一緒に文章を言っていた。 ・「次は〇〇が手伝うんだよね」と内容がわかっている様子であった。	・「かぶは大きくなったら大根になるの？」と質問してきた。 ・「おもしろかった、もう1回読んで」と言う子がいた。 ・絵本の表紙と裏表紙がつながると知り「すごーい」と言っていた。	・友だちと一緒に1つの大きなものを遊びの中で作っていた。 ・素話も喜んで聞いていた。 ・縄跳びの縄を葉っぱに見立てて友だちと「うんとこしょどっこいしょ」と引っ張っていた。
考察	友だちと一緒に何かを引っ張って遊ぶ姿が見られたことから、共同遊びへのイメージが出てきたと考えられる。		

【実践記録Ⅰ 3歳児】

絵本名	どうぞのいす		
ねらい	思いやりの気持ちを持つ		
月	読み聞かせ中の 子どもの反応	読み聞かせ後の子どもの感想	課題絵本を読んだことでの変化
1月	・文章の部分(短いところ)を保育者に合わせて一緒に読むようになった。	・動物たちが代替りの食べ物を置いていく優しさについて話が出ていた。	・動物たちの優しい気持ちにも気づけ、情緒が豊かになったように感じた。
2月	・次に出てくる動物の名前を言っていた。	・みんなだったらどうぞのいすに何を置かか質問すると、色々な食べ物の名前を発言し、楽しんでいた。	・お茶や牛乳をこぼしてしまった時、他の友だちも一緒に片付けをする等、子ども同士の思いやる姿が見られた。
3月	・『おきのどく』と繰り返し言ったり「これはどういうことなの？」と質問がたくさん出ていた。	・自分だったら椅子に何を置きたいか話していた。	・友だちに優しく接する姿があった。 ・自分の椅子を見立て遊びに使っていた。
考察	友だちに優しくできたり、自分の椅子で見立て遊びをしたり、自分ならばと想像して楽しんでいたり、楽しみながら優しさも育てられるのではないかと考えられる。		

絵本名	おおきなかぶ		
ねらい	友だちと協力することのよさを感じる		
月	読み聞かせ中の 子どもの反応	読み聞かせ後の子どもの感想	課題絵本を読んだことでの変化
1月	・「うんとこしょどっこいしょ」の掛け声を自然と発し、身振り手振りをしながら見ていた。	・「おおきなかぶはどうやって食べたのかな？」とみんなで考え、最後まで楽しそうに見ていた。	・「うんとこしょどっこいしょ」と何かを引っ張る時に掛け声を掛けている子がいた。
2月	・かぶがなかなか抜けない時、かぶを抜こうとする動作が見られた。	・みんなで力を合わせて抜けた時、「わーい、やったー」と喜ぶ子がいた。それを見て一緒に喜ぶ子がいた。	・片付けや、物を運ぶ際、「うんとこしょどっこいしょ」と楽しそうに運ぶ姿が見られた。
3月	・次に出てくる登場人物も覚え、口々に言う姿が見られ、「うんとこしょどっこいしょ」の掛け声も大きくなってきた。	・「おおきなかぶごっこをしたい」と言う子がいた。それぞれ役を決め、交換しながら楽しく遊んでいた。何度もやりたがる様子が見られた。	・ごっこ遊びをクラスみんなで楽しむことで、団結力も高まり、けんかも少なくなってきた。休みの子がいると「○○くんが来たらまたやろう」と優しい言葉が言える子もいた。
考察	友だち同士で役を決め演じることができるようになったことから、絵本の世界への没入感を知ることができると考えられる。		

【実践記録 I 4歳児】

絵本名	ぐりとぐら		
ねらい	目標を達成する喜びを知る		
月	読み聞かせ中の 子どもの反応	読み聞かせ後の子どもの反応	課題絵本を読んだことでの変化
1月	・静かに集中して見ている。「ぐりぐらぐりぐら」と一緒にセリフを言っている子もいた。	・たまごの殻でできた車を作りたいと、段ボールで作っている子がいた。	・重い荷物を持つ時に手伝ってあげられる子もいた。
2月	・たまごを見つける場面では「恐竜のたまごかな？」等、想像力を膨らませる子もいた。	・「大きなたまごだったから、みんなに分けたんだね」「ぐりとぐらって優しいね」等、内容をよく理解していた。	・ブロック遊びでは友だち同士でパーツを合わせ、さらに大きなバイクを作って遊ぶ姿が見られた。大きくすることでより多くの友だちと遊べるという発想を絵本から学んだように感じた。
3月	・たまごを使って何を作るのか楽しそうに予想していた。	・「大きなたまごの殻があったら他の物も作れそう」と想像を膨らませていた。	・たくさんの動物、仲間ができて、分け合う優しい気持ちを感じられた。
考察	玩具等を使い、友だちと協力し大きなものを作り上げ、皆で遊べたことから、一緒に成し遂げることでより一層楽しさが増すことがあると考えられる。		

【実践記録 I 4・5歳児】

絵本名	くれよんのくろくん		
ねらい	友だちの個性を認める		
月	読み聞かせ中の 子どもの反応	読み聞かせ後の子どもの反応	課題絵本を読んだことでの変化
1月	・くろくんが仲間外れになっ てしまった時に、「くろくん かわいそう」と話したり、花 火ができる場面では「わあ」 と表情が明るくなり、興味 津々に見ていた。	・「くろくん仲間に入れてもらえ てよかった」「仲直りできてよか った」など内容を理解し、くれよ んの気持ちを考えていた。	・みんなで仲良く遊ぼうとする姿 が見られた。 ・お絵描きの時間に自分で好き な絵を描いた後、黒で塗りつぶ し、試そうとするようになった。
2月	・「僕は黒が好きだよ」とくろ くんの思いを感じ取り、発 表する子がいた。 ・「くろくんかわいそう」と心 配そうに見ている子もいた。	・くろくんの頑張りを見て、「頑 張ったんだね」「すごいね」等 ほめる言葉が聞かれるようにな ったり、「皆で遊んだ方が楽し いよね」「それぞれ役割がある んだね」と隣に座っている子に 話しかける子もいた。	・「家でやってみよう」と挑戦しよ うとする姿があった。 ・一人ひとり考えが違うことを理 解し、友だち同士優しく関われ るようになり穏やかに過ごせた。
3月	・くろくんが仲間外れにされ た場面では、心配する様 子があったり、「仲間ってい いね」と言っている子がいた。	・くれよんたちが仲直りできて 安心する子もいた。	・引っかけ絵をする子がいた。 ・お絵描きの際、黒のクレヨン を積極的に使おうとする姿が見 られた。 ・仲間外れの言葉を意識したの か遊びの中でもルール確認等、 しっかり行えるようになってきた。
考察	4歳児：くろくんの気持ちを理解しようとし、共感することで他者を理解しようと思う気持ちになると考えられる。 5歳児：一人ひとり考えが違うことを理解しそれぞれの役割を認め協力し合えるようになったことから、友だちとの関わりが良好になると考えられる。		

【実践記録 I 4・5歳児】

絵本名	くれよんとちいさいしろくん		
ねらい	困っている友だちに優しくする		
月	読み聞かせ中の 子どもの反応	読み聞かせ後の子どもの感想	課題絵本を読んだことでの変化
1月	・しろくんが迷子になってしまふ場面では、心配そうに見ている姿が見られた。	・「しろくんの仲間が見つかってよかったね」「楽しかった」と嬉しそうだった。	・戸外遊びでは鬼ごっこで積極的に仲間を助けたり、仲間意識も芽生えたように感じた。 ・友だちが物をなくしてしまうと、一緒に探してあげる姿が見られた。
2月	・しろくんの不安そうな表情やセリフを聞いて「かわいそう」「さみしそう」などしろくんに感情移入しているようだった。 ・皆で仲間を探す場面では、応援するような声も聞こえた。	・しろくんの不安な表情が印象的なようで「私だったらひとりになったら泣いちゃう」と自分に置き換えて考える子もいた。 ・「ぼくのくれよんも迷子だよ」と自分のくれよんについて話したり、「皆でさがそうよ」等、思いやりの言葉を言っていた。	・しろくんのような小さい友だちに関心を向けるようになり、戸外遊びでは自分より幼い存在を気遣ったり思いやりの心をもって接したりする姿が見られるようになった。
3月	・しろくんの泣いている時の表情を真剣な目つきで見ながら、「かわいそう」と心配そうにしていた。	・「くろくん優しいね」等と友だち同士で話したり、自分に置き換え、「小学生になると別々の小学校になるんだね」「さみしい」と悲しそうに話したりしていた。	・小さい子に優しくしてあげようとする姿が見られた。 ・自分のお道具箱の中身を気にして、きれいにする子がいた。
考察	4歳児：自分より小さい子をしろくんだと思い、接したり助けたり優しくしようという感情が持てるようになると考えられる。 5歳児：お道具箱の中を気にする子がいたり、卒園を考え、寂しいと感じる子がいることから、現在だけでなく前後の見通しが立てられるようになったと考えられる。		

【実践記録Ⅰ 5歳児】

絵本名	どうぞのいす		
ねらい	思いやりの気持ちを持つ		
月	読み聞かせ中の 子どもの反応	読み聞かせ後の子どもの感想	課題絵本を読んだことでの変化
1月	・「次は誰が出てくるのかな？」と楽しみにしながら見ている。	・「みんな、次の人の事を考えていて優しいね」と言う子もいた。	・自由遊びの時にどうぞと書いた紙を貼って遊んでいる子がいた。
2月	・気になる言葉があると言葉をくり返し「○○って何？」などと質問があった。	・「普段どうぞのいすがあっても誰のものかわからないから、もらわない」という新しい意見も出た。	・以前より思いやりを持って行動する事が増えたように感じた。
3月	・皆、優しいね等、友だち同士話す姿も見られた。	・「私だったら～」「それいいね」など友だち同士で自分だったらどうしようと、楽しんでいた。	・次の人の事を考え、行動できるようになった。 ・就学への不安がある中、友だちとの関わりがより深まったように感じた。
考察	次の人のことを考えて行動できるようになったことから、社会性が芽生えたと考えられる。		

その他：課題絵本をくり返し読み聞かせると飽きてしまうのではないかと懸念があったが、子どもたちは読み聞かせをするたびに内容を理解し、その時々で受け止め方にも変化があるため飽きずに絵本に触れることができたと推測される。

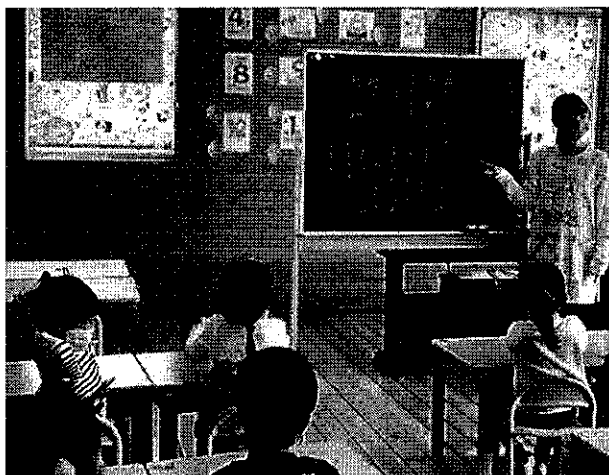
【実践記録Ⅱ 劇あそび】

対象児： 保育園年長クラス16名

実践日：令和5年6月

内容：「おおきなかぶの劇を誕生会で発表する」

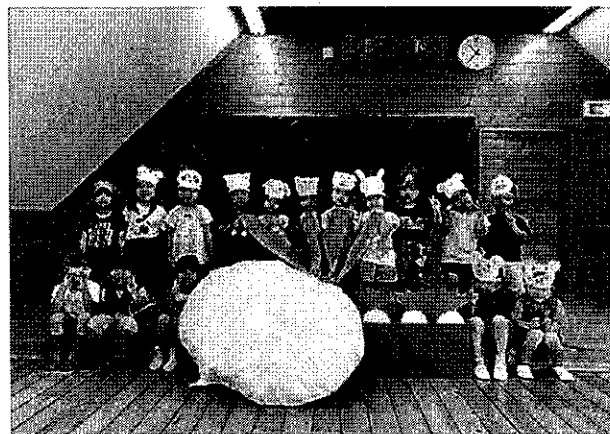
- ① 配役を決める
- ② セリフを決める
- ③ 小道具などを作成する
- ④ 発表



「トラがいたらすぐ抜けるんじゃない？」
「トラは動物園からお手伝いに来たことにすればいいね。」
「ガオーってセリフ入れたいな」など、
子どもたちは自分の考えを楽しそうに発表していた。



大きなビニール袋に新聞紙をぎゅうぎゅうに詰め込んでいるところ。



誕生会ではたくさんの友だちや保護者の前で堂々と発表することができた。

発表した後は「ドキドキしたけど楽しかった」「またやりたい」という声が聞こえた。

3. 保育者対象講演会の実施

絵本ワークショップ研究者 寺島知春氏による保育者対象オンライン講演

テーマ：絵本の読み聞かせは「相互作用」がキーワード

実施日：令和5年9月2日

参加者：県西ブロック保育施設35施設 保育士他

～講演もくじ～

- ・ 想像の世界で起こっていること
- ・ 声の体験
- ・ みんなと一緒の絵本
 - 家ではできない「集団」の体験
 - 遊びのヒントをもらえる
 - 新しい絵本との出会い
- ・ 「読み聞かせのすすめ」のすすめ
- ・ 絵本は一生を支える

（参加者の感想）

- ・ 絵本は「集団での読み」、「1対1（親と子）の読み」それぞれに違った良さがある。
- ・ 読み聞かせは大人と子どもの愛着形成を築くうえで、大切なツールの一つだと改めて知ることができた。
- ・ 読み手の姿を子どもたちはよく見ているため、自分自身が楽しんで読むことが大切と再確認できた。
- ・ 「忙しい母が自分に向け、声を出して絵本を読んでもくれる時間が愛を感じる時間だった」の言葉が、今まさに忙しい母である自分の心に響いた。
- ・ 自分の大好きな絵本「めっきらもっきらどおんどん」が紹介された時、心の中でこんな楽しい絵本はない！！と心が躍っていました。
- ・ 「絵本は言語的コミュニケーションだけでなく、非言語的コミュニケーションでもあり、機械では代替できない」という言葉が印象に残った。
- ・ 将来、子どもたちにとって「愛された記憶」として残るよう、絵本の時間・絵本選びをしようと思った。
- ・ 多くの保護者にも、この講演を聞いて欲しいと思った。
- ・ 絵本に興味を持たない保護者に対して、絵本って簡単で素敵で愛がいっぱいだと伝えたい。

4. 保護者の声

保育園の保護者の貸し出し絵本を利用しての感想

- ・ かわいい動物を見るとニコニコして嬉しそう。(0歳児)
- ・ 絵本に出てきたものに興味を持ち、他の場面で見つけると反応するようになった。(1歳児)
- ・ 絵本を読んでいる時に悲しい時や嬉しい時の感情が顔に出ている時があるので、人の気持ちがわかるようになったと思う。(2歳児)
- ・ 小さな生き物や自分より年下の子をお世話する気持ちが芽生えた。(3歳児)
- ・ 貸し借りや「ありがとう」がスムーズにできるようになった。(3歳児)
- ・ 仕事で忙しく帰宅から就寝まで流れるような日々の中、絵本と一緒に読むことでコミュニケーションをとっていると実感できる。(4歳児)
- ・ 「ママ、お手伝いすることある？」と助けてくれる。(4歳児)
- ・ 1人で読んでいる時に感情を込めて音読するようになった。(5歳児)
- ・ それぞれの立場で考えられるようになり、いろいろな人の気持ちを想像できるようになった。(5歳児)

5. 保育研究担当者の感想

- ・ 絵本を通して人間関係、言語獲得、信頼関係など、様々な面で学べるものが多くあると感じた。又、子どもたちの反応から学ぶことがあった。より多くの絵本のおもしろさを伝えていきたいと思った。
- ・ 保育中に読み聞かせの時間を多くもうけることで子どもたちの絵本への興味を深めることができた。その結果、貸し出し絵本の日に絵本を借りる子が増えた。絵本の内容を保護者と話すことでコミュニケーションが増え親子関係が深められたのではないかと感じた。
- ・ 保育研究で絵本を読んでいくうちに子どもたちの反応や想像力や考え方などがどんどん具体的になっていき絵本を通して相手の気持ちを考えられるようになっていき成長を感じた。
- ・ 大人が絵本を読み聞かせることは「教え」ではなく、絵本の世界を楽しみ工夫することでメロディーが生まれ、時には1冊の絵本が一生の支えとなる。
- ・ 「絵本」というものが子どもたちに与える影響、効果はたくさんあり、より子どもたちの成長を感じることができた。これからも子どもたちとの絵本の時間を大切にしていきたいと思った。
- ・ 絵本の研究を通してアンケートで自宅での読み聞かせの実態を知ることができたり、課題絵本を読んで子どもたちの変化を感じることができた。小さい頃からの読み聞かせの大切さも改めて実感することができた。
- ・ 保育の中で子どもたちと絵本に触れる機会はたくさんあったが、絵本の持つ力が子どもの心の成長に大きな力となることを改めて知り、絵本の選び方や読み聞かせの方法など意識するようになった。職員間でもアンケートを通し、絵本について考え意識することでより良い保育へとつながる機会になった。

V まとめ

県西ブロックでは、身近にいつもあるものを題材として研究したいと考え『絵本』をテーマとすることにした。

絵本を利用して、学びやしつけ（ルール）を教える効果は多岐にわたるため、今回は、感情の変化に目を向け、研究を進めることにした。

保育施設と保護者の両方から子どもにアプローチすることで、子どもの変化や親子の変化につながるのではないかと考え、課題絵本や貸し出し絵本、絵本だよりを活用した。

研究の中で、保護者へのアンケートを実施すると、家庭での絵本に対する考え方や不安、様子を知ることができた。そこから絵本を勧める機会にもなった。

保育施設では課題絵本を読むことで、心の変化が見られたり、イメージを膨らませ、劇遊びに発展し、子ども自ら配役やセリフ決めなどを行い、発表ができた。

また、絵本研究者の寺島知春先生による講演で「大人が楽しんで読むことで子どもに伝わって、愛が与えられる」との話で、保育士の意識改革になり、保育者も楽しみ、絵本の世界に入ること子どもたちの感情も豊かになると分かった。

様々な絵本との出会いで、自分の気持ちが理解できるようになり、他人の存在を認め、理解しようとすることで、心が成長していこう。

今後も保育者と保護者とで、たくさんの絵本と触れ合い、子どもの心を豊かに育てていきたい。

〈参考文献〉

保育所保育指針

（課題絵本）

「いないいないばあ」 文 松谷みよ子 絵 瀬川康男 / 童心社

「きんぎょがにげた」 作 五味太郎 / 福音館書店

「おおきなかぶ」 訳 内田莉莎子 画 佐藤忠良 / 福音館書店

「どうぞのいす」 作 香山美子 絵 柿本幸造 / ひさかたチャイルド

「ぐりとぐら」 作 なかがわりえこ 絵 おおむらゆりこ / 福音館書店

「クレヨンのくろくん」 作・絵 なかやみわ / 童心社

「くろくんとちいさいしろくん」 作・絵 なかやみわ / 童心社

（講演会）

「めっきらもっきらどおんどん」 作 長谷川摂子 画 ふりやなな / 福音館書店

「非認知能力をはぐくむ絵本ガイド180」 著 寺島知春 / 発行者 芥藤和邦

発行所 株式会社秀和システム